

## 第1回ISO/TC 324東京総会の開催報告

2019年6月13日～14日

### 概要

第1回ISO/TC 324総会が、2019年6月13日～14日に日本の東京で開催されました。

出席は

Pメンバー国： 8

外部リエゾン： 2 (ETUC, ANEC)

代表者約34人が会議に参加、更に週内通して3名が電子会議システムで参加しました。



ISO/TC 324総会代表団，2019年6月

### 主な議事内容

総会の1日目は、委員会幹事の遠藤が開会宣言を行って、世界各国からの代表の東京への来訪を歓迎し、会議ホストをする標準開発機関である日本工業標準調査会（JISC）を代表して経済産業省大臣官房審議官（産業技術環境局担当）である渡邊昇治氏より歓迎の挨拶が行われました。

続いて、委員会幹事よりTMB投票結果による議長選出の説明があり、その後は議長である産業技術総合研究所人間拡張研究センター研究センター長の持丸正明博士が引き継ぎました。

持丸博士は、議長挨拶の中で、標準は規制ではなくコンセンサスであり社会を変える手法の一つであること、標準化の対象がものの構造や性能からプロセスやサービスの分野に広まっていること、及びシェアリングエコノミーに対して標準化の果たし得る役割についての考えを説明し、参加者は積極的かつ穏やかに意見を述べること、英語のネイティブスピーカーには聞きやすく話すこと、ノンネイティブスピーカーには表現より中身なのでためらわずに英語で発言をすることを促しました。

各出席者から自己紹介が行われた後、ホストであるJISCからの委託を受けて会議を主催運営する日本規格協会（JSA）から、会議日程、歓迎懇親会などの詳細について説明が行われました。

会議の議題が採択された後、国際標準化機構（ISO）の技術プログラムマネージャーであるMonika Iridoさんから、ISOのメンバー構成、規格開発作業を行うための作業グループやアドホックグループなどの区分、ISOの行動基準、ISO/IEC専門業務用指針、国際規格開発フローの概要説明が行われました。これらの説明は、ISO/TCに初めて参加する各国代表が国際規格開発活動の進め方についての洞察を深め、プロジェクトの作業に積極的に参加するのを助けることを意図しています。

次に、委員会幹事の報告が行われ、その中で、ISO/TC 324のタイトル及び業務範囲案、17のPメンバー国、13のOメンバー国、5つの外部リエゾン機関（うち2つの団体は承認投票中）が紹介されました。

その後、1日目の主な議題である、各国のシェアリングエコノミーの現状及び課題となっている点の紹介が、カナダ、中国、デンマーク、フランス、日本、韓国、シンガポール、米国からそれぞれ行われました。また、ANEC（欧州標準化消費者連合）及びETUC（欧州労働組合連合）からそれぞれの代表する利害関係者からのシェアリングエコノミー分野での活動に対する懸念や標準化に寄せる期待が紹介されました。

現在、各国での共通の課題として、消費者の関心がプライバシー保護や利用者の安全性の向上であること、及び労働者の関心がオンラインで働く人の労働環境への配慮であることなど、活発な意見交換が行われました。また、今後は発展途上国の意見を反映していくための取り組みをしていく必要があるとの意見も出されました。

2日目は、SBS（欧州小企業標準化NPO）及びCI（国際消費者機構）から、シェアリングエコノミー分野での活動に対する懸念や標準化に寄せる期待が紹介された後、TCの設置提案書に関して各国から寄せられたコメントの概要が委員会幹事より紹介されました。

それらのコメントでは次の事項に対する検討の必要性が指摘されていました。

- ・ TCの業務範囲の広さ
- ・ シェアリングプラットフォーム、協調経済、ビジネスプラットフォームというタイトル選択肢
- ・ 他の関連するISO/TCであるISO/TC288（観光）、ISO/TC290（オンライン評判）、ISO/TC 323（循環経済）、ISO/TC 307（ブロックチェーン）との協調
- ・ 消費者の利益
- ・ 公共の安全、信頼、透明性及びデータセキュリティ
- ・ 働く人の保護
- ・ 経済的な影響
  - － シェアリングエコノミーの共有の概念の多様性
  - － 幅広いステークホルダーの参加
  - － 理論的及び政策的な観点
  - － 技術的及び商業的な側面
  - － プラットフォームの恩恵を受ける人

議長は、TCのタイトル及び業務範囲、並びに、他の関連するISO/TCとの協調については対応する議題で議論を行うこと、また、その他の検討すべき課題については具体的な規格開発の作業の際に検討が行われることになるであろうと説明しました。

TCの業務範囲に関しては、シェアリングエコノミーの取引をするプラットフォームなどを限定すべきではないかとの意見もありましたが、シェアリングエコノミーのサービスの多様性が広がりつつあり今後も技術進化が見込まれることやサービス利用者にはインターネットに必ずしも慣れていない高齢者が含まれる場合があることなどを考慮して、現時点では取引をするプラットフォームなどの限定は行わず、ISO/TC 324の設置提案書で投票され承認された業務範囲を使うことが望ましいとする意見が多く出されました。

タイトルについては、ISO/TC 324の設置提案書で投票され承認されたタイトル‘シェアリングエコノミー’を使うことで合意されました。

新作業項目提案（NP）の候補については、ISO/TC 324の設置提案書で投票され承認された次の3件のプロジェクトが、委員会幹事から紹介されました。

プロジェクト1: 原則及び用語の規格

プロジェクト2: シェアリングエコノミープラットフォームの運用及び管理の規格

プロジェクト3: 実践の指針

遊休資産を活用する実際の市場の参加者には個人だけでなく企業も含まれていることを反映して、用語‘シェアリングエコノミープラットフォーム’のより包括的な定義を規格では採用すべきであるとする意見があり、また、シェアリングエコノミーに固有であって協調経済や循環経済とは異なる側面、及び、種々の協調プラットフォームの期待される役割を明確にすべきとの意見も出されました。これらを含めて、最初に、用語及び原則の国際規格を開発するプロジェクトを進めることが望ましいとする意見が多く出されました。

シェアリングエコノミーの運用面の標準化は、用語及び定義のレビュー結果を考慮に入れて検討を進めることが望ましいとの意見が多数ありましたが、運用面の標準化の新作業項目提案に向けて、プラットフォーム事業者への要求事項を規定したBSI/PAS 202:2019（日本規格協会ソリューションズからJSA-S 1202として和文規格を出版中）、マネジメントシステム規格とするか否か、

提供者の適格性の審査，シェアリングエコノミーにおける紛争解決などについて，小さなグループで、運用化の規格調査検討を開始することが望ましいとすることが合意されました。

今後のISO/TC 324の組織構成案に関しては，用語及び原則の国際規格開発を行う新作業項目提案の承認投票と作業グループ設置提案の承認投票を次回総会までに行うことが合意されました。また，運用化の国際規格の選択肢を調査し，運用面の標準化の提案を評価するためにアドホックグループを設置することが合意されました。さらに，ISO/TC 324の戦略事業計画については，タスクグループを設置して草案作成をすることになりました。

規格開発の作業に当たって，他の関連するISO/TCとの協調をするために，ISO/TC 324から関連する他のISO/TCへの内部リエゾン設定については，ISO/TC 286（協業によるビジネス関係管理），ISO/TC 176/SC 3（品質管理及び品質保証—支援技術），ISO/TC 290（オンライン評判），ISO/TC323（循環経済），ISO/TC 307（ブロックチェーン及び分散台帳技術），ISO/TC 309（組織のガバナンス），及びISO/TC317（消費者保護：消費財のためのプライバシーバイデザイン）へリエゾン代表を派遣することになりました。

### 社交行事

1日目の夜に，代表団が公式に親交を深める歓迎懇親会が，会議場に隣接するPullmanホテルのレストランで開催され，JSAグループの理事長である揖斐敏夫氏から，代表団の皆様の日本来訪への歓迎とこの重要な作業に熱心に参加されたことへの謝意の挨拶がありました。委員会はJISC及びJSAが非常に寛大な主催をし，新TCの第1回会議が生産性高かつ楽しいものとなるよう支援していただいたことに心から感謝します。

### 決議 Resolutions

総会では次の決議が承認されました。詳細は文書N-038を参照ください。

1. 決議案策定委員会を設置する
2. 議題を承認する
3. 国際幹事の報告を承認する
4. TC324からISO/TC 286, ISO/TC 176/SC 3, ISO/TC 290, ISO/TC323, ISO/TC 307, ISO/TC 309, 及びISO/TC317へのリエゾン設定をする
5. ISO/TC324の設置提案書で投票され承認されたタイトル及び業務範囲を使う
6. 国際ワークショップ協定IWA 27:2017に基づいて用語及び原則の国際規格を開発することに合意し，Kernaghan Webb氏をプロジェクトリーダーとする
7. 上記の用語及び原則の国際規格開発の提案が承認されたあかつきには，ISO/TC 324/WG1（用語及び定義）を設置し，Kernaghan Webb氏をコンビーナに指名する
8. ISO/TC 324/AHG1（運用化のための選択肢）を設置し，二宮秀樹氏とYao Xin氏を共同コンビーナに指名する
9. ISO/TC 324/TG（戦略事業計画）を設置し，遠藤智之氏をTGのコンビーナに指名する
10. 次回ISO/TC 324総会について、カナダ規格審議会（SCC）に主催を申し出いただいたことを感謝する

### 今後の会議

会議2：2019年12月9日～11日 トロント/カナダ 確認済

更に詳細は間もなく発信の予定

会議3：2020年5月／6月 ヨーロッパ（TBD）

会議4：2020年11月／12月 アジア（TBD）

上で使った写真を提供いただいたJSAの大坪 湧生氏に感謝します。

遠藤 智之

委員会幹事

ISO/TC 324 国際幹事